

中級試験おためし問題 A / (なんとA)問題)

問一 次の文は、「開目抄」・「顕仏未来記」・「四条金吾殿御消息」が著わされた背景について述べられています。文中の () には適当な言葉を、後の語群から選び、記号で答えなさい。ただし、語群がすべてあてはまるとはかぎりません。また、() () には御書名をそれぞれ記入しなさい。

文応元年七月、大聖人は『() 立正安国論 ()』をもって幕府を諫めめるが、幕府は聞き入れるところか、翌八月には ク の草庵を焼き打ちにし、翌弘長元年五月には イ の ウ へ流罪したのである。弘長三年になって、大聖人は赦ゆるされて鎌倉へ帰られたが、翌文永元年十一月、安房の エ で傷を負うなど、大聖人に対する迫害は激しくなる一方であった。

そして、文永八年九月十日、日ごろ大聖人を最も憎んでいた サ 頼綱が執権職代理として、幕府の奉行所に呼び出し、前執権であった北条時頼・重時を「無間地獄におちた」といいふらしているとの嫌疑で取り調べを行った。また、怒りに狂った シ は数百人の家来を引き連れて、松葉ヶ谷の草庵に押し入り大聖人を捕え、その際少輔房が法華経第五の巻で大聖人の頭を打ちすえたのである。十二日夜半、大聖人は ア へと向かわれ、頸の座にのぞまれる。途中、由比ヶ浜からお供したのは『() 開目抄 ()』の対告衆となった コ である。

翌日、大聖人はひとまず相模国依智の本間六郎左衛門の館に移されことになる。滞在中に著わされたのが『() 四条金吾殿御消息 ()』である。

十一月一日 キ の オ 三昧堂に入られた。 キ での生活は筆舌に尽くしがたいものであり、その中でただお一人大聖人のお供をされたのが ケ である。一度流罪されれば、とうてい生きては帰れぬといわれるところで、まさに、死罪同様なのである。

翌年一月十六日には、 キ の周りの国々から念仏・真言などの僧が集まっていた オ 問答が行われた。同年二月、こうした状況の中で著わされたのが『() 開目抄 ()』である。

さらに同じ頃、かねてから大聖人が『() 立正安国論 ()』で予言されていた ス 難が現実に取りきたのである。これが世にいう「二月騒動(北条時輔ときげの乱)」である。

翌文永十年五月、 カ で著わされたのが『() 顕仏未来記 ()』と『如説修行抄』である。

翌文永十一年二月には、ついに赦免となり、三月二十六日に鎌倉に無事に帰られたのであった。

語群 () ア、竜の口 () イ、伊豆 () ウ、伊東 () エ、小松原 () オ、塚原 () カ、一谷

キ、佐渡 () ク、松葉ヶ谷 () ケ、日興上人 () コ、四条金吾 () サ、平左衛門尉

シ、立正安国論 () ス、自界叛逆 () セ、日蓮大聖人 ()

問二 次の「顕仏未来記」の御文について、あとの問いに答えなさい。

『日蓮此の道理を存して既に () () 二十一年なり、日來の災・月來の難・此の両三年の間の事既に死罪に及ばんとす今年・今月万が一も脱がれ難き身命なり、世の人疑い有らば委細の事は弟子に之を問え、

幸なるかな一生の内に () () 無始の謗法を消滅せんことを悦ばしいかな未だ見聞せざる教主釈尊に侍え奉らんことよ、願くは我を損ずる国主等をば最初に之を導かん、我を扶くる弟子等をば釈尊に之を申さん、我を生める父母等には未だ死せざる已前に此の大善を進めん、但し今夢の如く () 宝塔品 () の心を得たり、此の経に云く「 () () 若し須弥を接つて他方の無數の仏土に擲げ置かんも亦未だ為難しとせず乃至

若し仏の滅後に惡世の中に於て能く此の経を説かん是れ則ち為難し」等云云、 () 伝教大師 () 云く「浅きは易く深きは難しとは釈迦の所判なり浅きを去つて深きに就くは丈夫の心なり、 () 天台大師 () は釈迦に信順し法華経を助けて震旦に敷揚し・叡山の一家は天台に相承し法華宗を助けて日本に弘通す」等

云云、安州の日蓮は恐くは () () 三師に相承し法華宗を助けて末法に流通す三に一を加えて三国四師と号す』

① 御文の にあてはまることばや御文を答えなさい。

② 次の文は、「顕仏未来記」の大意について述べられています。文中の 葉を後の語群から選び記号で答えなさい。 にあてはまる適当な言

「オ の ア を ウ す」との題号の通り、まず大聖人が 工 の ア のこと、
とくを実証されたことを述べられ、御自身が末法の イ であることを大確信をもって宣言せ
られ、さらに大聖人御自身の ア が示されています。

語群（ア、未来記 イ、御本仏 ウ、顕 工、釈尊 オ、仏）

③ 傍線アと傍線エについて、次の「聖人御難事」の御文の にあてはまることばを答えなさい。

傍線アについて

「去ぬる建長五年太歳癸丑四月二十八日に安房の国長狭郡の内東条の郷・今は郡なり、（中略）此
の郡の内清澄寺と申す寺の諸仏坊の持仏堂の南面にして、午の時に此の 法 門 申しはじめて今
に二十七年」
（御書全集一一八九六）

傍線エについて

「仏は四十余年、天台大師は三十余年、伝教大師は二十余年、出世の本懐を遂げ給う」
（御書全集一一八九六）

④ 傍線イの意味（語訳）を答えなさい。

無始（久遠元始以来）以来、重ねてきた正法誹謗（謗法）の罪

問三 「四条金吾殿御消息」の御文について、あとの問いに答えなさい。

『度度の御音信申しつくしがたく候、さても・さても去る 十二日の難のとき貴辺たつのくちまで・

つれさせ給い、しかのみならず 腹を切らんと仰せられし事こそ不思議とも申すばかりなけれ、日蓮
過去に妻子・所領・眷属等の故に身命を捨てし所いくそばくか・ありけむ、或は山にすて海にすて或は河
或はいそ等・路のほとりか、然れども法華経のゆへ題目の難にあらざれば捨てし身も蒙る難等も成仏の
ためならず、成仏のためならざれば捨てし海・河も仏土にもあらざるか。今度法華経の行者として流罪・

死罪に及ぶ、流罪は 伊 東 ・ 死罪は たつのくち ・ 相州の たつのくち こそ 日蓮が命を捨

てたる処なれ仏土におとるべしや、其の故は・すでに法華経の故なるがゆへなり、 経に云く「十
方仏土中唯一乘法」と此の意なるべきか、此の経文に 一乘法 と説き給うは法華経の事なり、十方

仏土の中には法華経より外は全くなきなり 除仏方便説と見えたり、若し然らば 日蓮 が難にあ
う所ごとに仏土なるべきか、娑婆世界の中には日本国・日本国の中には相模の国・相模の国の中には片
瀬・片瀬の中には竜口に日蓮が命を・とどめをく事は 法華経 の御故なれば 寂光土 ともいうべきか、
神力 品に云く「若於林中若於園中若山谷曠野是中乃至而般涅槃」とは是か』

① 文中の にあてはまることばを答えなさい。

② 傍線アについて、次の「下山御消息」の御文の にあてはまることばを答えなさい。

「文永八年九月十二日 に都て一分の科もなくして佐土の国へ流罪せらる、外には遠流と聞え
しかども内には頸を切ると定めぬ」（御書全集三五六六）

③ 傍線イについて、次の「四条金吾殿御返事」の御文の にあてはまることばを答えなさい。

「文永八年の御勘氣の時・既に相模の国・竜の口にて頸切られんとせし時にも殿は馬の口に付いて足歩赤足にて泣き悲み給いし事実にならば腹きらんとの気色なりしをば・いつの世にか思い忘るべき」(御書全集一一九三六)

④ 傍線ウの本義について、次の文の にあてはまることばを後の語群から選び記号で答えなさい。

「ウとしての生命であり、エの再誕としてのカ の姿を払って、本地 才 如来と現れ、末法の イ の姿を顕されたことすなわち、ア を示している」

語群 (ア、発迹顕本 イ、御本仏 ウ、凡夫 エ、上行菩薩 才、久遠元初自受用身
カ、垂迹)

⑤ 傍線エについて、この経品名を答えなさい。 方便 品第 二

⑥ 傍線オ・カについて、次の文の にあてはまることばを答えなさい。

「十方仏土中 唯一乘法 むに やくむ さん たん 但 い け み よう じ いん 引 導 お し ゆ 衆 じ よう 生」は、次のように読む。

「十方仏土の中には 唯一乗の法のみ有り 一無く亦三無し

仏の方便の説をば除く 但仮の名字を以って 衆生を引導したもう」

問四 「開目抄」の御文について、あとの問いに答えなさい。

『詮ずるところは ア 天もすて給え諸難にもあえ 身 命 を期とせん、身子が六十劫の 菩薩の行を退せし乞眼の婆羅門の責を堪えざるゆへ、 イ 久遠大通の者の三五の塵をふる 悪知識に値うゆへなり、善に付け悪につけ法華経をすつるは地獄の業なるべし、大願を立てん ウ 日本国の位をゆづらむ、 法華経 をすてて観経等について後生をこそよ、 エ 父母の頸を刎ん念仏申さずば、なんどの種類の 大難 ・出来すとも 智 者 に 我 義 やぶられずば用いじとなり、其の外の大難・風の前の塵なるべし、 オ 我日本の柱とならむ我日本の眼目とならむ我日本の大船とならむ等とちかいし願やぶるべからず 』

① 文中の にあてはまることばを答えなさい。

② 傍線アについて、次の文の にあてはまることばを答えなさい。

大聖人は本抄で、「 守護神 此国をすつるゆえに 現 罰 なきか 謗 法 の世をば 守護神 すて去り 諸 天 まほるべからずかるがゆへに 正 法 を 行 ず る も のにしるしなし還って大難に値うべし」(御書全集二三二六)と仰せになっている。

③ 傍線イの語訳について、次の文の にあてはまることばを答えなさい。

「五百 塵点劫の昔に 久遠実成 本果の 釈尊 に結縁して下種を受けた衆生」と「三千塵点劫の昔に出現した 大通智勝仏 の十六人の王子（ 釈尊 の過去世の姿）に結縁して下種を受けた衆生」の意。

④ 傍線ウ・エについて、日寛上人は「開目抄愚記」で次のように述べられています。文中の「善」または「悪」のことばで答えなさい。

『日本国の位をゆずらむ』とたばかりは善につけてなり。『父母の頸を刎ん』とおどすは悪につけてなり。これ世間の極善・極悪を挙あぐるなり」（文段集二〇五^六）

⑤ 傍線オについて、次の文の にあてはまることばを答えなさい。

『日本の柱』とは主の徳、『日本の眼目』とは師の徳、『日本の大船』とは親の徳を表し、大聖人が 三徳具備 の 末法の 御本仏 であることを仰せになられている。

《解答欄》

ア、(G) イ、(K) ウ、(C) エ、(M) オ、(L) カ、(N) キ、
(F)
ク、(A) ケ、(H) コ、(J) サ、(B) シ、(E) ス、(D)

問六 次の「如説修行抄」の御文について、あとの問いに答えなさい。

『夫れ以んみれば 末 法 流布の時・生を此の土に受け此の経を信ぜん人は 如 来 の在世より 猶多怨嫉の難甚しかるべしと見えて候なり』

其の故は在世は能化の主は仏なり弟子又大菩薩・阿羅漢なり、人天・四衆・八部・人非人等なりといへども調機調養して 法華経 を聞かしめ給ふ 猶多怨嫉 多し、何に況んや末法今の時は教機時刻当来すといへども其の師を尋ねれば 凡 師 なり、弟子又闘諍堅固・白法隠没・三毒強盛の悪人等なり、故に 善 師 をば遠離し悪師には親近す、其上真実の法華経の 如説修行 の行者の師弟檀那とならんには決定せり、されば此の経を聴聞し始めん日より思い定むべし況滅度後の大難の三類甚しかるべしと、然るに我が弟子等の中にも兼て聴聞せしかども大小の難来る時は今始めて驚き肝をけて信心を破りぬ、兼て申さざりけるか経文を先として猶多怨嫉況滅度後・況滅度後と朝夕教へし事は是なり・予が或は **ア** **所**を・をわれ或は **イ** **疵**を蒙り・或は両度の御勘気を蒙りて **ウ** **遠**国に流罪せらるるを見聞くとも今始めて驚くべきにあらざる物をや 』

① にあてはまることばを答えなさい。

② 以下の傍線部の意味（語訳でもよい）を説明しなさい。

調機調養 (衆生の機根を調べ、さらに教化し養うこと。)

闘諍堅固 (釈尊の滅後、釈尊の仏法の間で言い争いが盛んになること。)

白法隠没 (釈尊の仏法のなかで正しい法が見失われて衆生を救う力を失ってしまうこと。)

三毒強盛 (貪り・瞋り・癡かの煩惱が強盛なこと。)

③ 傍線部猶多怨嫉況滅度後を書き下し文にしなさい。

(猶多怨嫉多し況んや滅度の後をや)

④ 傍線ア・イ・ウについて、それぞれ相当する法難を答えなさい。

ア、(立宗宣言の時に清澄寺を追われ、松ヶ葉の法難で草庵を襲撃された。)

イ、(小松原の法難で東条景信に襲われ、腕を折られ、額に傷を受けた。)

ウ、(弘長元年の伊豆流罪と文永八年の佐渡流罪。)

問七 「如説修行抄」についての問いに答えなさい。

① 以下の事柄に相当する人物を後の語群から選び、記号で答えなさい。

ア、法華経のために、九横の大難にあわれた。 (G)

イ、法華経の故に、杖木瓦石の難をうけた。 (F)

- ウ、蘇山に流された。 (A)
 エ、顔面に焼き印を押された。 (D)
 オ、首をはねられた。 (B)
 カ、南三北七にあだまれた。 (E)
 キ、六宗に憎まれた。 (C)

《語群》

- A, 竺の道生 B, 師子尊者 C, 伝教大師 D, 法道三蔵 E, 天台大師
 F, 不軽菩薩 G, 釈尊

② 以下の語句はどの經典で説かれた偈ですか。下の語群から選び、記号で答えなさい。

- ア、現世安穩 (D) A, 無量義經
 イ、未顕真実 (A) B, 法華經方便品第二
 ウ、正直捨權 (B) C, 法華經譬喻品第三
 エ、大白牛車 (C) D, 法華經藥草喻品第五
 オ、不老不死 (E) E, 法華經藥王品第二十三
 カ、正直捨方便 (B)

③ 「安樂行品の如く修行」するとは、どのような修行ですか。簡潔に説明しなさい。

(身・口・意・誓願の四安樂行の撰受の修行を説いた。)

④ 「撰折二門」を簡潔に説明しなさい。

(撰受・折伏のことで、仏道修行における二つのあり方。)

⑤ 次の文は日寛上人が「追記」の御文について述べられたものです。にあてはまることばを後の語群から選び、記号で答えなさい。

「常に心に C を忘れて、 E を思わなければ、心が G に同ずることになる。また、口に C をいわなければ、口が G に同ずることになる。手に数珠を持ち、本尊に向かわなければ、身が G に同ずることになる。ゆえに、 D の本尊を念じ、本門寿量の本尊に向かい、口に法華本門寿量文底下種の B の南無妙法蓮華經を唱うる時は、 F に折伏を行ずる者となるのである。これこそ F に A を信ずる人なのである」

《語群》

- A, 法華經 B, 一念三千 C, 折伏 D, 法華本門 E, 四箇の格言
 F, 身口意の三業 G, 謗法

① 傍線アについて、これは何を指しますか。簡潔に答えなさい。

(釈尊が法華経を説いた八年を指す。)

② 傍線イについて、何が説かれていますか。簡潔に答えなさい。

(虚空会の儀式に地涌の菩薩が出現し、別付嘱と総付嘱を受ける儀式が展開されている。)

③ 傍線ウについて、顔淵のどのような行動を例示された事ですか。簡潔に答えなさい。

(師匠の孔子から学んだことを、心のなかでは悟っていたが、言葉に出して言わなかったこと。)

④ 傍線エについて、これはどのような意味ですか。簡潔に答えなさい。

(御本尊こそ大聖人のかなめであり、御本尊を流布することが門下の使命である。)

問十 次の「日女御前御返事」(御本尊相貌抄)の御文について、後の問いに答えなさい。

一、次の御文の傍線「以信得入」について、後の問いに答えなさい。

『此の御本尊も只信心の二字にをさまれり以信得入とは是なり』

① この偈の出典を以下に答えなさい。

法華経 (譬 喩) 品第三

② この偈を以下に書き下し文にしなさい。

(信を以て入ることを得)

③ 法華経で「以信得入」を身で読んだ対告衆(人物)の代表を答えなさい。

(舍利弗)

二、次の御文の傍線「五種頓修の妙行」について、後の問いに答えなさい。

『此の事伝教大師入唐して道邃和尚に値い奉りて五種頓修の妙行と云ふ事を相伝し給ふなり、日蓮が弟子檀那の肝要是より外に求る事なかれ、神力品に云く、委くは又又申す可く候』

① 「五種の修行」について、簡潔に説明しなさい。

(法華経法師品等で説かれた、受持・読・誦・解説・書写の修行のこと。)

② 「五種頓修の妙行」を簡潔に説明しなさい。

(五種の修行を一時に習得できる修行で、御本尊を受持して南無妙法蓮華経と唱えること。)

